

# 「苦しくない大腸内視鏡検査」



川崎幸病院  
消化器内科副部長  
内視鏡統括医師  
大前 芳 男



来春移転開院予定「川崎幸病院」

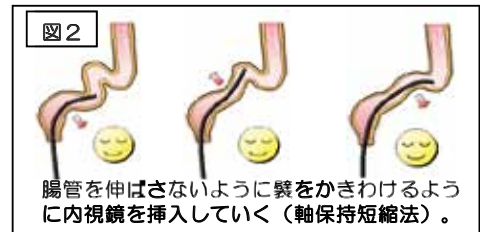
日本人の死亡原因の第1位は悪性新生物いわゆる癌です。中でも**大腸癌は第3位**であり、年々増加しております。大腸癌の症状としては、腹痛、腹部不快感、便秘、下痢、血便等ありますが、いずれも進行癌での症状です。**早期癌では症状は出ません**。大腸癌も**早期であれば治る**病気ですから、**早期発見が重要**です。

早期発見のためには、検査が必要になりますが、大腸内視鏡検査は痛いとか苦しいとか思う人が多いと思います。では、なぜ痛くなったり苦しくなったりするのでしょうか。

## ① 検査中の痛み

大腸の粘膜には知覚神経はないので、内視鏡が大腸の壁に当たっても痛みは感じません。**大腸が伸びたりねじれたりすることにより痛みを感じます**（図1）。痛みを感じないようにするためには、曲がりくねった**大腸をのばさずに内視鏡を挿入**しなければなりません。そのような挿入法は軸保持短縮法と呼ばれています（図2）。

しかし、大腸が長い方や手術等で腸がくっついている（癒着）方の中には、軸保持短縮法という挿入方法が出来ない方もいます。そのような方の場合には、**苦痛が出る前のなるべく早い段階で腸管のたわみ（ループ）を解除**します（図3）。

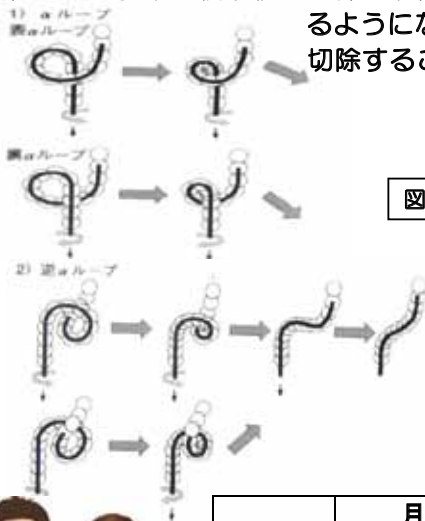


## ② 検査後の腹部張り感

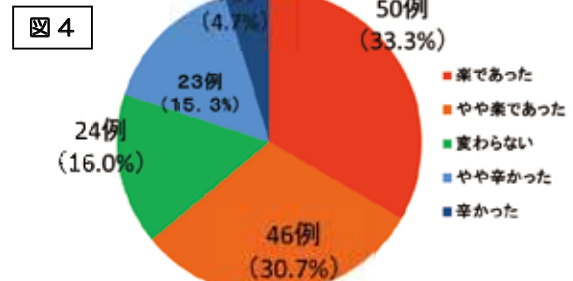
大腸内視鏡検査は腸を膨らませて内腔を観察するので、検査終了後もおなかの張り感を感じる方もいます。腹部張り感を減少させるため、現在は**空気ではなく、二酸化炭素を用いています**。二酸化炭素は消化管から非常に速く血中に吸収されます。その速度は、**空気の主成分である窒素の35倍も速く吸収される**と言われています。吸収された二酸化炭素は速やかに肺から排出されるため、検査後の腹部膨満感を軽減することが出来ます。

当院でも使用しておりますが、大腸ポリープを切除した方にアンケートを答えて頂いたところ、通常の検査よりも時間がかかっているにも関わらず、約64%の方が楽だった・やや楽だったと回答されました（図4）。

内視鏡機器の進歩や内視鏡検査の挿入技術により、以前に比べると大腸内視鏡検査の苦痛は軽減することが出来るようになってきています。大腸癌も早期であれば、おなかを切らずに内視鏡で切除することも可能です。早期発見のためには、大腸内視鏡検査を受けましょう。



CO2送気で大腸ポリープ切除術を行った150例



【川崎幸クリニック 消化器科 外来担当表】

	月	火	水	木	金	土
午前	中塚・高畑	藤原	眞田	大前	圓地	南
午後	堀野	吉川	菊岡	小峯	圓地	-----

